

- 地域の情報や身近な話題、
耳寄りな情報を
どしどしお待ちしています！



伊唐島の畑でバレイショ収穫を手伝う建設会社の社員↑

高 長島町建友会が農作業のお手伝い 高齢化の人手不足を解消

町内の建設会社でつくる長島町建友会（福山義弘会長）が、町内農家の労働力不足を補おうと、バレイショの収穫作業を手伝いました。

この取り組みは、公共工事の少ない時期にあわせ平成18年度から今年で6年目。今年度は4月24日から5月11日までの期間、本会の加盟19社の協力があり、総勢46人を派遣しました。各社からの収穫作業員は、畑1カ所に1人から2人が駆けつけバレイショ拾いや運搬などを行っていました。作業員をお願いした伊唐集落の冷水一三さんは「この時期はどれも人手不足。建友会の活動は大変助かる」と喜んでいました。同会の福山会長は「収穫作業には最低賃金の費用がかかりますが、来年度も依頼があればぜひ協力したい」と話しました。

ヒ 鹿児島県豊かな海づくり パイロット事業 ヒラメさん大きく育てね

5月25日、育てる漁業を推進するため「鹿児島県豊かな海づくりパイロット事業」を活用したヒラメの稚魚の放流体験学習が町内の2校で行われました。

これは、北さつま漁業協同組合長島支所（新蔵正人支所長）と東町漁業協同組合青壮年部（竹上裕記部長）が主催。この日は、東シナ海側と八代海側の2カ所に体長10センチほどの稚魚約1万8千尾余りをそれぞれ放流しました。

北さつま漁業協同組合長島支所の組合員らは城川内小学校3・4年生の児童と指江港の船揚場で実施。東町漁業協同組合青壮年部の部員らは、鷹巣小学校4年生の児童を薄井漁港桟橋から船に寄せ、竹島周辺と伊唐大橋下の浅瀬へ移動し放流しました。参加した児童らは「大きくなってね」と何度も声をかけながら稚魚が海に潜っていくのを笑顔で見送っていました。



↑城川内小学校児童は指江港の船揚場で放流



←鷹巣小学校児童は、竹島沖と伊唐大橋下に移動し船上から放流